平成 27 年度　　校内研修計画

山梨市立岩手小学校

1　学校課題

本校は，神社仏閣が残る山間の自然優美な地域にある。近年は，果樹を生かした観光化が進んで道路が新設され，収穫の時期には休日ともなると観光客が訪れ活気がある。その一方，農業従事者の高齢化や児童数の減少も見られる。

全校児童が，少人数であり保育園から小学校卒業までほとんど変動のない人間関係の中で生活しているため，複数の意見の表出の機会や互いに意見を交流する場面が少ない。そのため，固定概念が子どもたちの中に生まれている。2014 年度の Q-U による学級満足度は平均的であるが，学習意欲が平均より低い児童がいる。

地域の伝統を基にした「岩手小学校太鼓」の発表の場の工夫や児童会の様々な活動の活性化などの取り組みは異年齢間の交流を生み，意欲や自信となっている。

また，教育特例校として平成 21 年度から英語科学習を通しコミュニケーション能力の素地を育むことを目標に研究を進めてきた。英語学習への意欲につながっている児童が多い（楽しい 97%，使いたい 82%）。

少人数のメリットを生かし，教師の個別指導が行き届く利点があり，学力の定着のための指導を充実させてきた。反面，指導が行き届きすぎる面もあり，”転ばぬ先の杖“となってしまうこともある。その結果，必要以上に児童が教師を頼ったり，出番をあきらめたりする傾向がみられる。学力の確実な習得のため，少人数を生かした個別指導を行うとともに，自主的に学ぼうという意欲をもたせ，自主的な学びの方法を身につけさせることを意識した指導場面も必要である

近年の学力・学習状況調査，県学力把握調査，CRT テスト等の結果から，本校の児童の学力面では，主に次のことに課題がある。

①　習得漢字数，語彙数をより充実させること
②　目的や意図に応じ，自分の考えを具体的に書くこと
③　書かれているテキスト文から内容を正確に読みとること
④　図形や量，時間などの知識を習得すること
⑤　問題文を図や計算式に表したり説明したりすること

また，親が家にいる家庭は少なく，児童の学習や学習環境について，親の意識を高める必要がある。

2　研究主題

「子どもが自ら学び，表現し，考える力を高める指導法の工夫」

3　主題設定の理由

本校の教育目標は，「自ら学び心身共に健康な子どもの育成」である。また，本年度の努力テント具体策として「一人一人に確かな学力をはぐくむ学習指導の充実に努める（わかる授業の展開）」と「多様な考えに触れる中で，児童自ら学び考える力を高め，思考力・判断力・表現力等の育成を図る」ことが挙げられている。

昨年度の校内研では，「評価の工夫」について焦点化し，児童，教師，保護者の評価について研究を進めてきた。児童の目標や教師のねらい，また保護者への啓蒙という点で，一定の成果がみられた。その中で「学力向上」についての課題として①本校における学力向上をどのように考えるのか②教師間で共通する授業像，児童像を明確にする必要性（方法や内容のしぼりこみ）③個を育て，個をきたえる指導方法の工夫④家庭学習を充実させるための手だて　などに課題がでた。

国や県などから喫緊の課題として「学力向上への取り組み」が出されている。また，上記のように学校経営方針及び，昨年度の課題からも全校での学力向上への取り組みを行う必要性を感じる。

さらに，学力の状況から本校においては，国語力に課題があることが浮き彫りにされている。国語はもとより，他教科における書かれていることの理解ができなければ，内容理解が困難となる。また，課題を解決する場面においても，その意図を読み取ることができなければ，正しく行動することが難しくなってしまう。

このように，国語力は，全教科におけるベースとなる力である。そこで，国語力に焦点をあて，研究を進めることが本校の学力向上に直結すると考えられる。

したがって，本年度の校内研究の柱を学力向上として取り組むこととした。

4　研究具体的内容と方法

(1) 研究の内容

① 英語科においての評価の検証

「発達段階や児童の意欲・興味関心などに即しているか」「社会の課題・今後の課題と照らして望ましいか」等について英語担当を中心として進めていく。

② 学力向上にかかわる内容

国語力を中心に学力向上のための指導法の工夫について，実践していく。

(2) 研究の方法

① 全体研究会　研究をすすめるにおいて全体会をもち，共通理解を得る上で研究を進める

② 研究授業　研究授業を年間２本もつ。全体での研究会を行う。ブロックで１本。

③ 校内研修　効果のあった方法や工夫などを互いに提示する。

④ 一人一実践

⑤ 学校全体での取り組み　家庭学習推進　家庭へのおたより等の発行

5　年間校内研修計画　　研究主任　雨宮久

月	日	曜	回	主な内容（予定）	会のもち方（予定）
4	15	水	1	研究の方向について	全体
	20	月	2	校内研究の全体計画について（ブロックの研究内容）	全体（ブロック）
	27	月	3	全体計画（確認）・ブロック研究	全体・ブロック
5	13	水	4	研修①・ブロック研究	全体・ブロック
	27	水	5	研修②・ブロック研究	全体・ブロック
6	10	水	6	研修③・ブロック研究	全体・ブロック
	24	水	7	研修④・ブロック研究	全体・ブロック
7	8	水	8	研修⑤・ブロック研究	全体・ブロック
	15	水	9	研修⑥・全体（経過報告）	全体
8	19	水	10	研修⑦・ブロック	全体・ブロック
9	2	水	11	授業案検討①	全体
	9	水	12	ブロック研究（授業案修正）	ブロック
	16	水	13	研究授業①（研究会）	全体
10	14	水	14	ブロック研究（授業反省・記録検討）	ブロック
	21	水	15	授業案検討②	全体
11	4	水	16	ブロック研究（授業案修正）	ブロック
	18	水	17	研究授業②（研究会）	全体
12	2	水	18	ブロック研究（授業反省・記録検討）	ブロック
	9	水	19	全体（経過報告）・紀要について	全体
1	29	金	20	ブロックまとめ（成果と課題）	ブロック
2	17※	水	21	全体まとめ（成果と課題）　（学校経営研究会）	ブロック
	24※	水	22	来年度の研究の方向性　（授業参観）	全体
3	2	水	23	作業（紀要の拾い込み）	全体